

めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより 令和7年1月発行

かぐめよし少年自然の家



謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年もかぐめよし少年自然の家をどうぞよろしくお願いいたします。

年末より厳しい寒さが続いており、今もかぐめよしは雪に覆われている。昨日の積雪は16cm。気温は零下6度。他の施設の方と話をすると皆びっくりされる。

しかしそんなに寒いのか？思い返してみると二十数年前は、仕事を終えて帰るときに、車のフロントガラスが凍っていることは、12月を過ぎると、そんなに珍しいことではなかった。この10年来は一度も凍っていないのに・・・この冬イチョウの葉はなかなか黄葉せず、青みが残ったまま散り、三桠の葉はまだ残ったままである。ダムにやってくる水鳥は年々減少し、今では見つけられない日もあるくらいである。

一面の銀世界となった昨日、珍しいものを目にした。桑の木の下が、まあるく茶色になっているのである。最初は猪が地面を掘り返しているのかと思ったが、近づいてみると桑の葉が雪面に落ちているのである。それも一枚残らず・・・それも一本の樹だけでなく全ての桑の木が同じように雪面に葉を落としているのである。雪がやんだ後、示し合わせたように葉を落としたのか？謎である。当たり前の現象なのか？温暖化の影響ではないか？今年の夏は今までになく暑かった。今年の夏の事業は予定通り行ってもよいのだろうか？

子どもたちのために、次世代のためにメリハリのある四季を残すために何が出来るのか問い続けていきたい。



頂吉図鑑 ～第38回～



銀杏 (イチョウ)

今回ご紹介するのは、イチョウです。誰でもご存じのイチョウについて、なぜ書こうと思ったのか？上の写真に写っている生き物、アライグマがきっかけでした。

昨年11月のとある日、事務室から15mほど離れたイチョウから銀杏（ギンナン）の落ちる音がします。イチョウの木の下には倉庫があり、屋根の上にギンナンが落ちると結構大きな音が響きます。それ自体珍しいことではないのですが、風もないのに時間をあけてコツンと音がするので、樹の下より見上げてみると何やら蠢くものが・・・両手でギンナンを持って、外皮（特有のにおいがする柔らかい部分。イチョウは裸子植物なので果実ではなく種の外側の部分。人間が食べているのは種の中の胚乳の部分です。）を齧って、固い部分をポイッと倉庫の上に捨てています。アライグマです。アライグマって洗わずに物を食べるんだ！とそんなことにも驚きつつ、ちょっと仕草が可愛らしいと思ってしまいました。

イチョウは、何億年も前から生き残っている樹で、どこでも見かける樹ですが、実は絶滅危惧種です。イチョウの仲間は、恐竜の時代に栄えましたが、恐竜時代が終わると今のイチョウの種以外は滅んでしまいました。

新生代に入り寒くなったのが原因といわれていましたが、イチョウの仲間が絶滅に瀕したことに、恐竜の絶滅が大きく関わっていることが最近分かってきました。あのギンナンを丸ごと食べて、未消化の種子が混じった糞をする恐竜が、分布を広げていたのです。恐竜のいなくなってから、中国で、なんとか生き残っていたイチョウを食用として、また薬用として価値を見出し栽培を始めたのは人間でした。日本にも鎌倉時代時に入ってきたと言われていいます。今では、黄葉の美しいイチョウは世界中に植えられています。

イチョウは鴨脚樹とも書きますが、葉の方が水かきのある鴨の脚とそっくりなことから中国では鴨脚、（イーチャオ）と呼ばれ、それが語源になったと言われています。

いろんな生き物に関わりがあるイチョウのお話でした。

主催事業のお知らせ 1月～3月

	事業名	時期	対象者・人数
1月	親子でワクワク！工作教室	1月19日（日）	小中学生とその保護者5家族
	「竹チッパーって何だ！」 放置竹林対策事業	1月26日（日）	18歳以上 10名
2月	家族みんなでだんらんラン！	2月8日（土）～ 2月9日（日）	6家族
	第3回ボランティア研修会	2月23日（日）	施設ボランティア
3月	第6回かぐめよし自然少年団	3月8日（土）～ 3月9日（日）	かぐめよし自然少年団 に所属する団員

※ 応募は市政だよりをご覧ください、お申込み下さい。



北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒803-0267

北九州市小倉南区大字頂吉451-1

電話：(093)451-3111 FAX：(093)451-3133

ホームページ：<https://www.kagumeyoshi.com/>



主催事業報告



第2回はじめての陶芸教室



2回目は、前回に素焼きした土鈴をサンドペーパーで磨いたり、マグカップ、湯飲み、大皿の釉薬付けをしました。午後からは、天気良かったので、かぐめよし周辺の散策でススキの刀相撲をして楽しみました。

後日、本焼きをしたのですが、どれも素敵な作品に仕上がっていました！ぜひ、家族で食卓を囲んで使ってほしいなあと思います。

第4回かぐめよし自然少年団

今回は、数年ぶりに「七重の滝」ハイキングにチャレンジしました。再建された木橋を恐る恐る渡ったり、次々と現れる清冽な水しぶきを見ながら、少年団らしく元気に登りながら、かぐめよしの秋を堪能しました。

2日目は、放置竹林を通して、里山の現状を学びました。放置竹林の活用の一つとして、本施設所員、とめさんの竹チェロ演奏がありました。本物のチェロにも目が釘付けになり、手に取って自ら演奏する団員もいました。みんな放置竹林の事に興味をもってくれたみたいです。



市民センター職員等研修会

天候にも恵まれた11月22日、11名の市民センターの方に来所いただき、研修会を開催しました。ミニ門松づくりでは孟宗竹を切るところから体験してもらい、ナンテンや松、クマイザサで各自装飾して、素敵な作品が出来上がりました！棒パン作りや、暖かい鍋を囲みながらの食事、センター同士の交流も出来、情報交換に話がはずんで、楽しい時間を過ごすことが出来ました。



クリスマスリース作り

12月8日、クリスマスリース作りを行いました。今年の参加者は6家族18人でした。リースの土台は、葛（くず）のつる、飾り付けの材料は、サルトリイバラの実、様々な種類のドングリ、松ぼっくり、ヒイラギなど約20種類の自然のものを用意しました。家族ごとに思い思いの素材を選びながら、「ここにはこれを付けよう！」「ここは、サルトリイバラの実が良いね！」などと親子で話し合いながら、一点もののクリスマスリースを完成させました。自分で作ったリースは

やっぱり最高ですね！



ぺったんぺったんお餅つき

今年は5家族が集い、注連飾り作りとお餅つきを行いました。

1日目の注連飾り作りでは、慣れない作業に四苦八苦しながらも、家族で協力して立派なお飾りを完成させました。

2日目はみんな楽しみにしていたお餅つき。



みんなで協力してぺったんぺったん。途中、イチゴ大福や餡餅で口の周りを白くしながら、頑張りとお餅をつきました。

しっかりお正月を迎える準備ができた2日間。お土産のお餅、美味しく食べたかな？

第2回ボランティア研修会～施設ボランティア合同餅つき大会～

今年も、各施設から多くのボランティアや施設職員に集まっていただき、力を合わせて餅つきをしました。つき手が代わる代わる出て、元気な掛け声のもと、おいしいお餅が次々とつき上がりました。また、各施設から3グループに分かれての準備や片づけを通して交流しました。

お昼には、囲炉裏を囲み、自分達でついたり丸めたりした餅を食べながらだったので、会話がはずみ、参加者同士の絆を深めることができました。

